

生活とデザインセミナー

「あなたの知らない和紙の世界。」

講師：和紙ソムリエ／和紙キュレーター 杉原 吉直



越前和紙千参百年

「あなたの知らない和紙の世界。」

和紙ソムリエ／和紙キュレーター  
杉原吉直

和紙は、再生可能で1000年もの保存性があり、無害・無毒で人に優しく地球に優しい、日本の文化が結実した、スーパーアナログ、健康素材です。  
和紙には耳も目もあり、切ると口もできる。手入れが悪いとシミが出たり風邪をひいたりする。和紙は呼吸をしています。和紙は生きているのです。

仁愛女子短期大学  
Jinai Women's College  
2019 公開講座／生活とデザインセミナー

！入場無料！会場：仁愛女子短期大学 主催：地域活動実践センター 仁愛女子短期大学 生活デザイン専攻

2/16<sup>土</sup>  
14:00～(13:30開場)

告知フライヤー

2018年5月4日、岡太（おかもと）神社1300年大祭が厳かに、かつ盛大に執り行なわれた。この神社は、和紙の女神を祀る日本で唯一の神社である。  
また、和紙は、再生力と1000年の保存性があり、人と地球に優しい素材である。  
その理由と越前和紙の歴史を、明治4年創業の杉原商店10代目の杉原吉直氏にお話していただきました。  
その一部をご紹介します。



岡太神社 1300年大祭 2018.5.4



岡太神社 式年大祭（33年に一度）

## 紙は神様に通じる

神社の神主が使用の幣（ぬさ）は、昔は麻の紐であつたが、現在は和紙である。  
この幣を振ると神が山から降りてこられる。

今から1500年ほど前に、美しいお姫様が現れ、当時貧しかった村人に紙漉きを伝え発展をもたらしたという言い伝えがあり、その「川上御前」を紙祖神として祀るため岡太神社が建てられた。

## 福井は中国大陆に近く、都にも近い

岡太神社は「延喜式神名帳」(926年)という書物に記載されていることから歴史を感じることができる。



岡太（おかもと）神社

昔の紙は、麻の着物や魚を獲る網が古くなり使用できなくなったものを水に溶かし、漉いて紙にしていた。紙漉きは、中国から仏教とともに日本に伝えられ、工場が610年ごろできた。

その後、日本は独自に楮(こうぞ)・三桠(みつまた)・雁皮(がんび)を用いた製造に切り替えた。その理由としては、山野に材料があり、木の成長が早く、手に入れやすかったためである。



世界最古の2200年前の中国の紙

当時は三国から武生・大虫まで船で行くことができ栄えていた。当時の運搬は船が中心だったため、先の琵琶湖を通り京都・奈良にも通じていた。大陸に近く都に近いという地理的立地条件が揃った地域であった。

さらに、世界で一番古い印刷物(版画)は「百万塔」に納められた「陀羅尼(だらに)」で770年頃のものである。この「百万塔」に収めるために全国に紙漉きが広まり、現在も各地に紙の産地が残っている。

越前奉書紙は武家社会の公文書用紙(オフィシャルドキュメント)のことで、現在の和紙の里に紙座があり、三田村家が天下一と殿様からのお墨付きをもらって印を押すことを許され、他の産地と区別していた。

三田村家の現在の頭首は39代目、40代目も紙漉きを行なっている。



織田信長から賜ったお墨付き朱印

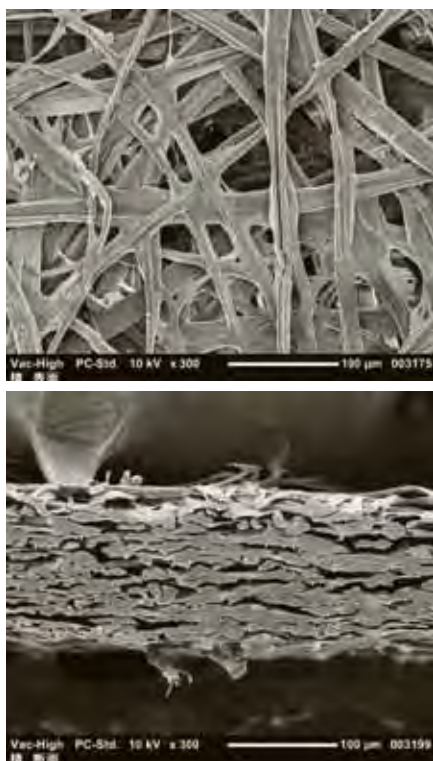
雁皮を用いた紙を越前鳥の子紙と称し、紙の王と賞賛された。

藩札(日本で一番古いお札)を出すことを最初に許されたのも越前で、職人たちの日々の研究開発・努力の賜物であり、越前で漉けない紙は無いとまで言われた高水準の産地である。

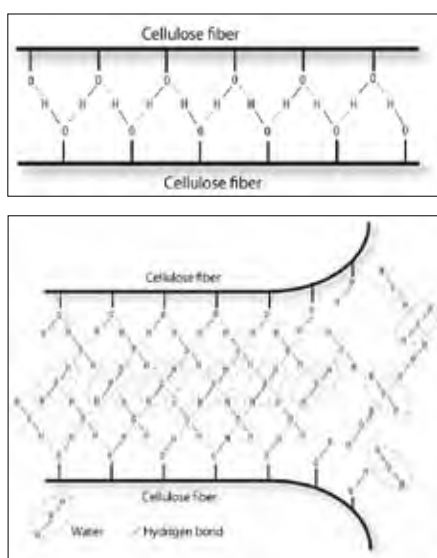


## 和紙は水素結合

和紙の繊維は長いため、丈夫で強い紙になる。また、空気の層や穴が多く断熱効果が高く、呼吸している。電気的水素結合で繊維同士がくっついているため、水で結合力を調整可能となり、魚拓、拓本などに利用できるのである。



和紙の電子顕微鏡写真  
(上:表面・下:断面)



和紙の水素結合図  
(上:乾燥後・下:繊維が漂っている)

## テオ・ヤンセン展

2019年9月開催の国際工芸展(仮)のメイン企画としてサンドーム福井のイベントホールにて開催予定。

テオ・ヤンセン氏のスケッチをもとに、杉原氏が越前和紙とのコーディネートを行なっていて、日本の伝統工芸とヤンセン氏のコラボレーションは世界初となる。

THEO JANSENは、1948年オランダ生まれで、デルフト工科大学を卒業。

オランダの彫刻家(キネティック・アーティスト)であり物理学者でもある。

風を受けて生物のような歩行をする作品「ストランドピース」新作の羽部分を越前和紙で製作し、展示および実際に動かすデモンストレーションを実施、その他の従来作品も展示予定。



## Japanese Echizen Paper

2015年レンブラントの版画に使用されている用紙の成分が、日本の越前和紙の成分の一部と一致したとレンブラントミュージアム（アムステルダム）が発表。越前和紙の実力を歴史が証明しているかのようだ。

杉原氏は、現在も内外の多くのアーティストに特注の越前和紙を提供し続けている。さらに建築資材として多くの建物に採用されている。



レンブラントミュージアム 2015年5月



武田双雲氏へ提供



隈研吾 神宮前の家プロジェクト



レストランRAKU (キャンベラ) 2018年



六本木 けやき坂 グランドハイアットホテル

2月16日/会場の様子  
皆さん真剣な  
まなざしでした！



杉原 吉直  
Yoshinao Sugihara

杉原商店代表/ 和紙ソムリエ・和紙キュレーター

- 1962年 福井県越前市不老町生まれ
- 1986年 小津産業(株)(創業350周年の和紙問屋)入社
- 1988年 (株)杉原商店入社
- 1993年 インクジェットプリンター対応和紙「羽二重紙」開発
- 2000年 「漆和紙(うるわし)」がDESIGN WAVE FUKUI大賞を受賞
- 2002年 IPEC2002に出展し「奨励賞」を受賞(東京ビックサイト)
- 2004年 パリ国際展示会「Salon du Meuble de Paris 2004」に出展
- 2008年 フランクフルト・アンビエンテ出展(ドイツ) 以後ミラノ、リヨン、ロンドン等で展示会開催
- 2011年 高島屋180周年ディスプレイに採用され、NHK WORLD-englishにて世界放送される
- 2013年 Jorg Gessner氏との提案がGUERLAIN(フランス・パリ)のショーウィンドウディスプレイに採用される
- 2013年 橋田規子氏デザインの「ちぎり和紙」がかわいい感性デザイン賞優秀賞受賞(日本感性工学会)
- 2015年 黒透かしのような「DECO-WASHI」の開発に取り組み、『デザインの引き出し』に取り上げられる
- 2016年 サザンオールスターズの限定DVDにオリジナル葡萄柄の和紙を作成。第1回 三井ゴールド匠賞を受賞